資料6

共同利用型サービス「スマクラ」について

2022年8月3日(水)

JCA手順※の課題 ※JCA手順は日本チェーンストア協会が1980年に制定した標準通信手段

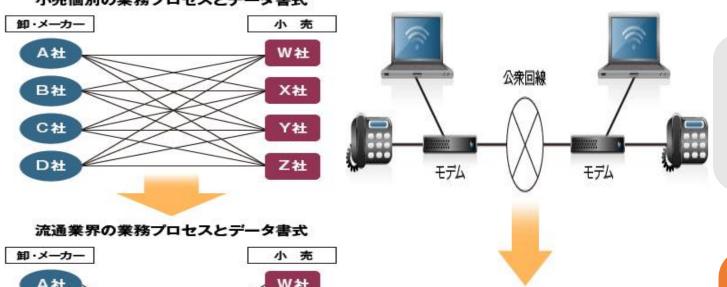
受発注データをやりとりする標準プロトコルとして制定された「JCA手順」は、長らく流通業界で利用されてきたが、手順制定から時がたち、環境も随分と変わり、下記のような課題が生じてきた

- ①小売企業ごとにシステムを開発
- ②問屋、メーカーは取引を行う小売企業ごとにシステム対応が必要
- ③NTTによるINSネットの2024年(当初2020年)廃止への対応も求められた

業務プロセスとデータ書式の標準化

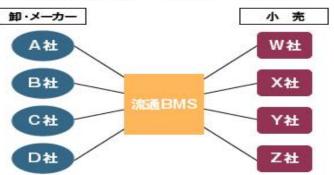
老朽化した通信手段の置き換え

小売個別の業務プロセスとデータ書式



40年前に制定された JCA手順の課題

- 通信時間が長い
- 専用モデムの提供中止
- 漢字や画像が送れない など





期待効果

- 通信時間が短い
- ・ 通信コストの低減
- 専用機が不要
- 漢字や画像を送信できる



業界主導の標準化を経済産業省が支援。業種・業態横断の標準化実現も!

流通サプライチェーン 全体最適化促進事業

流通システム標準化事業

普及停滞

2003年度~2005年度

2006年度~2008年度

2009年度~2011年度

2004年度 XML-EDIの実証 ※イオンとその取引先が参加

2005年度 次世代EDI 標準化ワー キンググループ

日本スーパーマーケット 協会と 日本チェーンストア協会 の協働

2006年度 標準メッセージ策定と 共同実証 スーパー(グロサリー)

2007年度 スーパー業界で実用化 商材の拡大 スーパー(アパレル・食肉)

2008年度 対象業態・業種・業務の拡大 スーパー(青果)・百貨店 ドラッグストア・ホームセン ター

2009年10月

基本メッセージに 生鮮版統合Ver.1.3 リリース

しかし、、、 採用企業が増えず 標準化自体が 頓挫する可能性

流通業界 効率化 の危機

小売企業数 570社 /総店舗数 14.500店舗 /年間売上14兆円

総店舗数

国内のスーパーマーケットが真剣に取組みを行わない限り、 流通BMSの普及は進まない

スーパーマーケット業界における流通BMSの普及に向けて、ITベンダー各社へ共同利用 を前提にしたEDIサービスの提案を要請⇒流通団体推奨として「スマクラ」を採用

●流通団体の合計規模

※2011年の実績(3団体の重複を除く)					
JSA 日本スーパーマーケット協会		NSAJ 全国スーパーマーケット協会		AJS オール日本スーパーマーケット協会	
会員企業	103社	会員企業	424社	会員企業	58社

1兆6,030億円 6兆6,808億円 8兆2,232億円 年間売上 年間売上 年間売上 賛助会員 518社 賛助会員 687社 358社 賛助会員

7,434店舗

総店舗数

●VCA 日本ボランタリーチェーン協会には27企業・団体が加盟

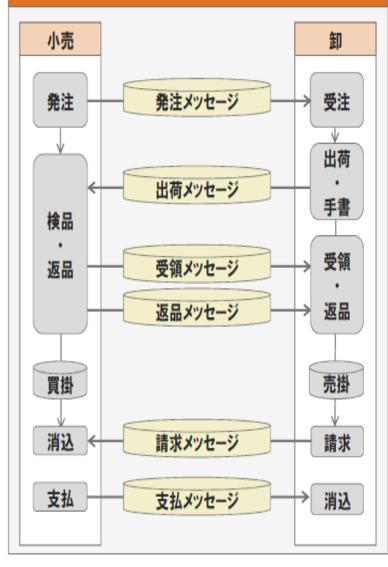
7,604店舗



総店舗数

1,125店舗

流通BMSの標準的な受発注業務プロセスに対応



標準機能 世の中の変化 法改正 チェンジリクエスト 業態·部門拡大 複数ブラウザ 新技術(セキュリティ)

スマクラ

スマクラ for BMS

(流通BMSR対応)

業務メッセージをはじめ、 通信プロトコル、XMLスキーマ、 全て流通BMSのプロセスに準拠。

スマクラ for Web

(Web-EDI対応※)

流通BMSの標準的な受発注業務 プロセスに加え、生鮮機能やオブション 機能を組み合わせてご利用頂くことで、 様々な業態・部門のEDI化を実現します。

- ・流通BMS標準のプロセス、メッセージ、項目全てに準拠。
- ・法改正(消費税関連)やチェンジリクエストなどの含めた変化に標準対応。

※スマクラ for Webは、「流通 B M S におけるWeb-EDI基本方針について」(2011年3月8日流通システム標準普及推進協議 会Web-EDI検討部会公開) に準拠する、流通BMS R補完サービスです。

常に最新のシステムを投資することなく、使い続けることができること

(例)EDIに求められる機能

流通BMSの最新版への対応 法制度の改正対応 最新の業務改善機能

スマクラは適宜に バージョンアップ!

安心して長く 使い続けられる

2014年 2012年 2013年 2015年 2016年 2017年~ Ver. 1. 0 ■基本6メッセージ対応 Ver. 2. 0 ■生鮮機能対応 ■データ受信・送信対応 Ver. 3. 0 ■手書機能強化対応 ■取引先要望機能追加対応■新デザイン対応 Ver. 4. 0 ■マルチテナント対応■メール通知機能対応 ■サブ機能のパラメータ化対応 Ver. 5. 0 ■軽減税率対応 ■複数ブラウザ対応 ■インボイス対応(流通BMSVer.2.1に対応) ■データ送信機能強化 ■スマクラforWeb Ver.8.1.1 ■スマクラfor e-image ■スマクラfor Internet EDI AnserDATAPORT接続サービス

標準機能UP サービス拡充



世の中の変化

法改正

業態·部門拡大

複数ブラウザ

技術(セキュリティ)

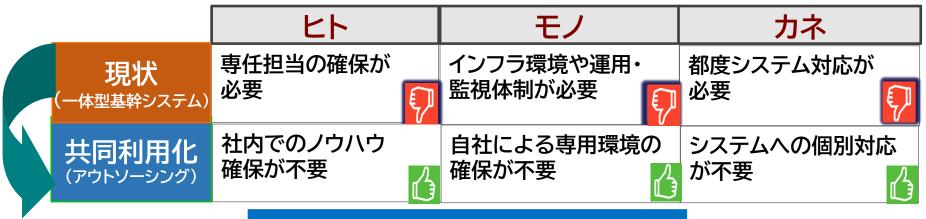
→企画中サービス(セキュア スマクラ、SAP化-API連携機能 等々)

■スマクラデータアーカイブ ・電子帳簿保存法対応 ・電子インボイス対応

■ スマクラポータルVer.2 ■スマクラforWeb Ver.9 ■スマクラEOS ■マスタ登録機能 ■スマクラBCP

スマクラで実現する共同利用のメリット(サービス機能「EOS機能」利用)

【共同利用化のメリット】



スマクラのEOS機能※で実現



での実現方法

「流通BMS」の活用を前 提とした、標準化された アプリケーションを準備 することで実現

24時間365日止めな い運用・監視体制とイン フラ環境を実現!

共同利用型のため、各社 共通で対応すべきこと はバージョンアップ対応 とすることで低コストを

「EOSとEDIが一体になったクラウドサービス」だから実現可能!

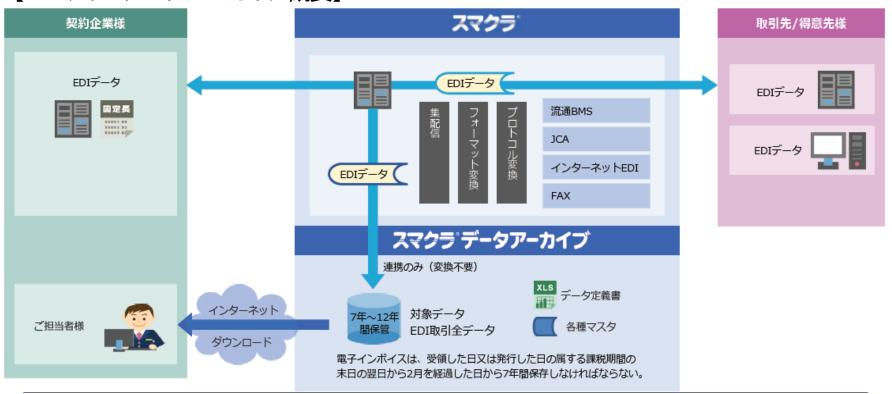
※ スマクラ内でマスタ登録や店舗・本部発注登録を行い、EOS処理を行う機能。EOS処理された発注 データはスマクラの各機能から取引先へ配信可能



スマクラで実現する共同利用のメリット(サービス機能「データアーカイブ」利用)

- スマクラは、法律・制度改正にもバージョンアップや新サービスの提供などで対応
- 2024年1月の改正電子帳簿保存法(電子取引に係るデータの保存義務)への対応として、 法に準拠したEDI取引データ保存サービス「スマクラ データアーカイブ」を提供
- 共同利用型サービスのメリットである、安価・簡易・迅速な導入が可能 (自社構築(オンプレミス)型に比べて)

【スマクラ データアーカイブ概要】



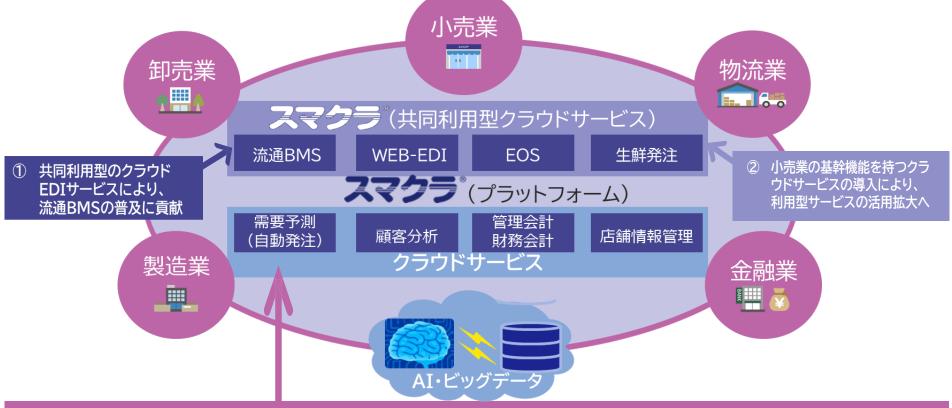
EDIデータはスマクラからクラウド上に保存し、電子帳簿保存法に則った形でダウンロード可能



スマクラの将来構想 次世代情報システムを支えるライフラインへの進化

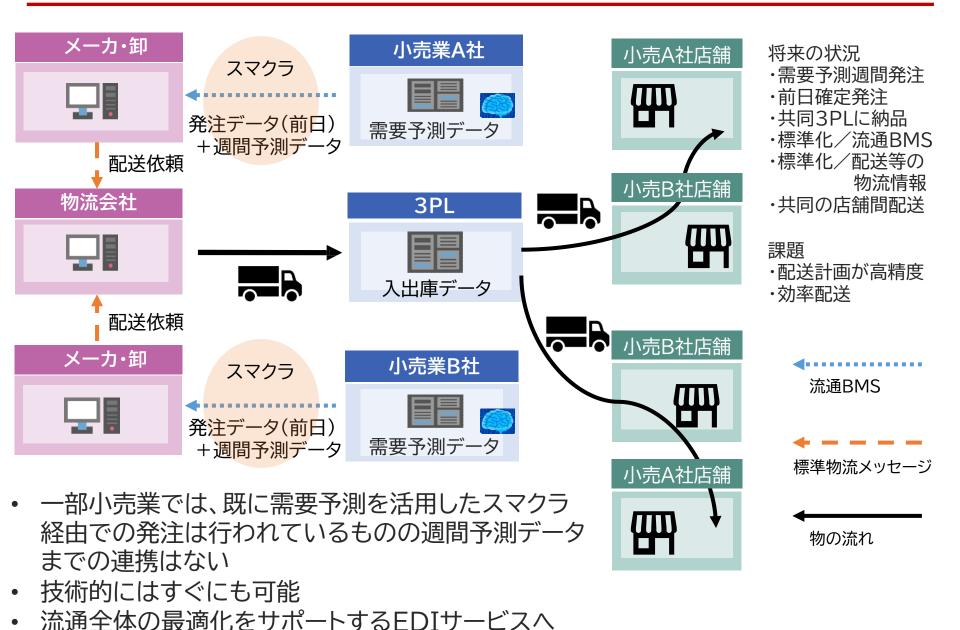
2021年 2023年 2025年 2030年

- 改正電子帳簿保存法準拠の スマクラデータアーカイブの 実装(EDI取引データ保存)
- ・ 電子インボイス対応(2023年)
- ISDN回線廃止(2024年)を 背景に流通BMSへの完全移行
- ・ 共同利用型に特化した流通業界の プラットフォームに進化
- 物流、金融との情報連携の役割



③ 製・配・販や物流・金融を含めた情報連携によりサプライチェーン全体の効率化へ。「中小企業共通EDI」、「電子インボイス(Peppol)」への対応も予定。物流EDI連携も視野に、物流をサポートするEDIへ進化

参考:物流効率化の貢献に向けた流通BMS・スマクラ活用のデータ連携も検討



◆配送センター業務:業務の効率化・配送の効率化で、生産性向上

ドライバー不足で "モノ" が運べない ⇒ 計画的・効率的な配送で対応



需要予測の情報共有・連携により、配送効率化を実現

<小売配送センター>

- 作業要員の計画的配置
- ・センター受入作業の効率化
- ・ドライバー・車両手配業務の改善
- ・より効率的な店舗への配送計画作成可能
 - →ドライバー・車両稼働率の向上

<店舗>

- 作業要員の計画的配置
- ・発注作業の廃止
- ・受領・検品作業の効率化
- ・在庫・陳列作業の効率化
- ・値引き作業の効率化

